

原 著

## 普及型車椅子のシーティング ～高齢障害者に対して～

横 田 剛\*<sup>1)</sup> 山 本 泰 子\*<sup>2)</sup>

高齢障害者は身体機能の変動が頻回であり、そのため使用する車椅子は調整機能がついているモジュラー型が適している。しかし、高価であり病院においても在宅においても実際には使用することが困難である。今回、廉価である普及型車椅子の背・座シートを改良することにより、高齢障害者の車椅子使用場面でのADL・QOLの向上を得ることが出来たので報告する。

キーワード：高齢者、車椅子、シーティング

### はじめに

一般に高齢障害者に対しては、病院においても在宅においても普及型車椅子が処方される事が多い。介護保険施行後の現在、その傾向は強まったように思われる。身体障害者福祉法による車椅子のオーダーメイドも可能であるが、介護保険下では原則レンタルである。またオーダーメイドが高齢障害者の生活を考えた場合、適しているかも疑問が残る。本来モジュラー型車椅子が高齢障害者には適していると考えられるが、高価であり、病院においても在宅においても購入の妨げとなっている。

今回、廉価である普及型車椅子の背・座シートを工夫することにより、高齢障害者のADL・QOL向上を図ることが出来たので報告する。

### 対 象

歩行自立困難な車椅子ユーザーであり、普及型車椅子では対応不十分な高齢障害者。特に①座位保持困難者 ②円背者 ③小柄な体格 ④足駆動者を適応と考えた。

### 目 的

車椅子上での不良姿勢を改善し、移動を含めたADLの改善を図ることにより、高齢障害者のQOLの向上を図る。

また、二次的合併症の発生を車椅子のシーティングにより予防する。

### 工夫場面

実際に行なっている車椅子の工夫を症例を通して紹介する。

普及型車椅子の背シートを図1のように縦2分割し、ひも調節式とすることで、座位保持が困難な高齢者の車椅子座位を不良姿勢になることなく簡易に達成することが出来た。

図2、3の症例は、ADL全介助で全く体動もできず食事も鼻腔経管栄養であったが、背シートを調整し長座布団を用いた車椅子に乗って屋外散歩が可能になり、コミュニケーション反応も著明に改善された。

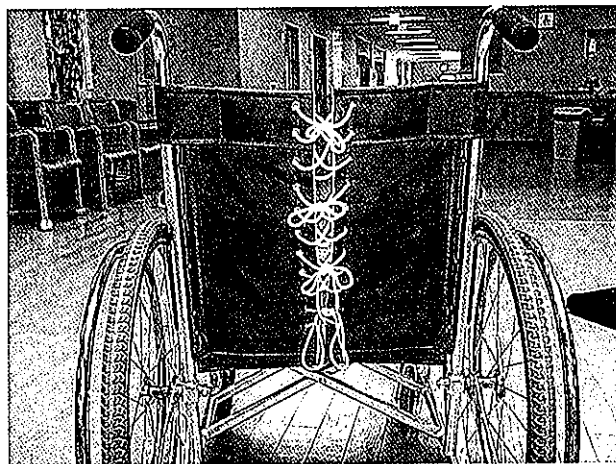


図1 2分割した車椅子



図2 屋外散歩

図4の症例は、高齢者によくみられる重度の円背であり、普及型車椅子では適切な座位姿勢の保持が困難であった。背シートを調整し、適切な座クッション(図5)を併用することにより、図6・7のような車椅子座位を獲得し、長時間の安楽かつ活動的な車椅子生活を達成できた。

図8の症例は円背かつ小柄な体格のため深く座り込めず、

\*<sup>1)</sup>〒949-8617 新潟県十日町市中条己2958  
介護老人保健施設きたはら作業療法士

\*<sup>2)</sup>同理学療法士

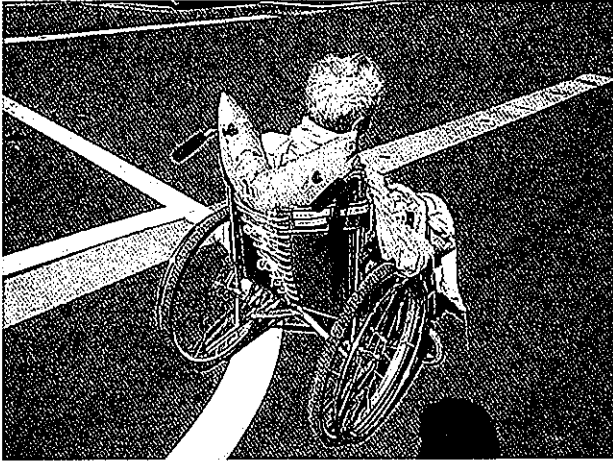


図3 姿勢が安定している



図6 姿勢が起きる



図4 円背高齢者



図7 円背にあわせてある

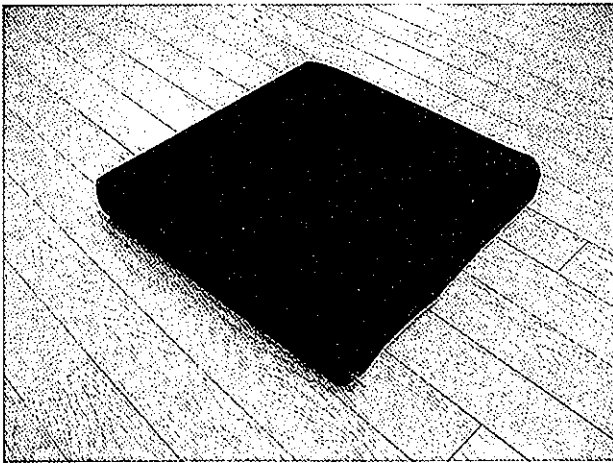


図5 座クッション



図8 小柄な体格

すべり座りとなっていた。そのため車椅子の上肢駆動も行なえず、移動が全介助であった。背シートの工夫に加えて座シートの奥行きを短縮する（座クッション含む）ことにより、図9のように深く座り込むことができるようになり、適切な車椅子座位の姿勢を確立し、車椅子上肢駆動が自立に至った。

図10の症例は、重度の左片麻痺・円背・座位保持障害が著

明であったが、背・座シートの工夫と座クッションの選定・改造を行なうことにより、右上下肢による片手片足駆動が自立に至った。

#### 考 察

1. 高齢障害者は身体機能の変動が頻回であり、調整機能が



図9 深く座り込める



図10 片手片足駆動

車椅子に求められている。

2. 車椅子自体の骨格構造に変更を加えることは出来ないが、背・座シートを簡易に調整することは可能である。
3. 背・座シートの工夫は①座位保持困難者 ②円背者 ③小柄な体格 ④足駆動者に適応があると思われる。

#### 今後の課題

1. 背・座シートを改良することにより、車椅子全体の重心

が後方に変位するため、後方への転倒の危険性が予測される。車椅子の転倒防止装置などの配慮が必要である。

2. 座シートの短縮により前方へのすべり落ちが考えられる。適応者の選定基準として自己管理能力の把握が必要である。
3. 調整型であるためセラピストによるモニタリングとアフターケアは欠かせない。退院・退所にあたっては、継続フォローアップシステムの確立が求められている。

Original article

## Seat of the folding-type wheelchair for the elderly handicapped

Tsuyoshi Yokota\*<sup>1)</sup> and Taiko Yamamoto\*<sup>2)</sup>

Modular-type adjustable wheelchairs are suitable for use by the elderly handicapped, because their physical abilities frequently change. However, they are seldom used in homes or in hospitals because they are expensive. We improved the back and seat of an inexpensive folding-type wheelchair in an attempt to increase the ADL and QOL of elderly handicapped wheelchair users. We report patients' experience with the use of the modified folding-type wheelchairs.

Key words : elderly handicapped, wheelchair, seat

---

\*<sup>1)</sup>Occupational Therapist, Kitahara Health Center for the Elderly  
Nakajyo ki 2958, Tookamachi, Niigata 949-8617

\*<sup>2)</sup>Physical Therapist, Kitahara Health Center for the Elderly